

初心

2009年盛夏号

平成21年7月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮らしと政治研究所

〒321-0102
宇都宮市江曾島町98番地
TEL 028 (645) 5100
<http://www.tomikazu.com>

とちぎ未来開拓プログラム

栃木県知事 福田富一



将来への夢をつなぐ

五月一日、厳しい財政状況を踏まえ「プログラム試案」を発表した。県民の皆様にご負担や我慢をお願いせざるを得ないことは、まさに断腸の思いであります。

一、何故この時期か

平成二十年度決算から「地方公共団体財政健全化法」が全面適用となり、本県の予算規模では二一〇億円程度の赤字で自動的に財政再生団体に転落します。そうなりますと、国の管理下に置かれ県独自の取り組みである少人数学級や子供医療費の助成など多くの事業ができなくなる恐れがあります。(夕張市が例)

二、何故財政悪化が進んだのか

バブル崩壊後の景気対策事業の借金の返済が高水準にあること。高齢化の進展等により医療福祉関係経費等が年々増加していること。一五年度からの三位一体の改革により、国からの交付財源が年間で七五〇億円も減ったこと。世界同時不況により、今年度の県税収入が四七〇億円程度大幅減が見込まれること。足利銀行破綻により、平成一六・一七年度に本県独自の経済対策を行ったことなど、予想外の事態が次々と起こったことによるものであります。

三、何の手も打ってこなかったのか

私の一期四年では、出先機関の統廃合などにより職員数

を三三八人削減、新県庁舎は三階削減し約六〇億円節約、県債発行残高(借金)も増加させませんでした。しかし、それらの行革努力を上回る収支不足を補うため、毎年三〇〇億円前後の財政調整基金(貯金)に頼った予算にならざるを得ませんでした。そしていよいよその貯金が底を尽きかけている訳です。

四、抜本改革実施へ

「とちぎ未来開拓プログラム試案」を決定し公表しました。それは毎年三〇〇億円の収支不足の解消策です。そして、平成二五年度に収支の均衡した予算編成を行うことを目標に、今年から平成二四年度を集中改革期間として計画を進めて参ります。具体策としては、職員数をさらに四五〇人削減、一般職等を含め給与カットの実施、さらに総事業数三二七五本のうち裁量の余地のないものを除き、二二三八本を見直し対象とし、内一四一九本について見直しを行うこととしております。

見直した事業はいずれも大切な事業であることは承知しておりますが、県民生活への影響を全体として限定的とするため、すなわち財政再生団体転落への道を、歩まないようにするため、やむをえないものと考えております。

何卒、将来への夢をつなぐためご理解とご支援を切にお願い致します。

ちよつと息

知事がトップセールス

東京駅で「イチゴ」PR

全国一の生産量と販売額を誇る県産イチゴ「とちおとめ」と二位の福岡県産「あまおう」が初めて協調し、東京で販売促進イベントに取り組んだ。このイベントはJR東日本グループの鉄道会館が9日から22日まで、東京駅八重洲口周辺の飲食店街「キッチンストリート」など5施設で開いている「キレイにのびのびフェアー冬ーいちごの国の贈りもの」。

2月18日には、福田知事が先頭に立って「とちおとめ」を無料配布した。知事は「日本一の本県のイチゴは絶妙な味わいです」などとPR。約100個入りのパック3000個を配ったが、5分後には底を突いた。

知事自らがトップセールスで「とちおとめ」をPR。JR東京駅



県民としての誇りを

知事給与20%カットへ

不況・財政難で条例改正案提出

県議会2月定例会が2月20日、開会。県執行部は2009年度当初予算案、08年度補正予算案を含む69議案を提出。福田富一知事は「深刻な景気悪化から1日も早く抜け出せるよう全力で取り組む。雇用機会の創出や中小企業向け制度融資の拡大を図り、社会資本整備を前倒し実施することによって、景気の下支えをしていく」と述べた。

提出された議案には、特別職の給与を減らす条例案も含まれ、削減率は知事が20%、副知事が15%、教育長、常勤監査委員が各10%。適用される期間は4月から知事の任期満了(12年12月8日)まで。年2回支給される期末手当も同様の削減率で減額される。

この日は、議員提案による県議の報酬を3%減らす条例案の採決が行われ、可決された。4月から適用される。

財政健全化へ試案発表

4年で1419事業見直し

福田知事は5月18日、今後の財政健全化策を示す「とちぎ未来開拓プログラム」の試案を発表した。平成25年度からの収支均衡予算編成を目指して全3275事業を検討。見直し対象に2338事業を挙げ、試案では1419事業を見直した。4年間で約450人の職員削減や職員給与の5%カットをはじめ、私立高校運営費補助の廃止や市町の財政力指数による補助率の変更事業の拡大など事業の聖域なき見直しを打ち出した。

福田知事は記者会見で「県民に負担や我慢をお願いせざるを得ないのは断腸の思い」と述べながらも「プログラムの実施で、財政再生団体への転落は回避できる。財源不足圧縮のため、さらなる見直しを行っていく」と力を込めた。

県は19日から、試案のパブリックコメントを実施し、寄せられた意見を計画に反映させる。議会や市町、関係団体とも協議し9月にプログラムを決定、公表。22年度予算編成で具体的に取組む。

元気な栃木づくりのために

『県全体で守り育てる』

地域医療を考える県民フォーラム

地域医療の現状と課題を住民と行政、医療機関が一体となって考える県民フォーラム「みんなで守り育てるとちぎの地域医療」が1月25日、宇都宮市駒生町のとちぎ健康の森で医療関係代表や市民代表ら約400人が参加して開かれた。同フォーラムは昨年度から全国で行われており、今回は4県目となる。

午前中に行われたパネルディスカッションには、福田富一知事や、県内の医療に詳しい高島三喜・県医師会会長、母の介護経験がある作家の落合恵子さんら6人が参加。

福田知事は、県内の公的医療機関に一定期間勤務すれば返済が免除される、産科・小児科志望の医学生への修学資金貸与事業や、女性医師の復帰支援事業など県の医師確保対策を紹介し、「中核病院と開業医のネットワーク作りに取組み、安心して住めるまちづくりをしたい」と述べた。

PRパネル前で初会見

4種類の図柄描く



県のPRパネルを背景に記者会見する知事

福田知事は3月27日、県をPRするパネルを背景に定例記者会見を行った。こういうスタイルの記者会見は民間企業などではよく見られるが、県が行うのは初めて。

バックパネルは県のブランド力向上に向けた県広報課職員の発案で、縦182センチ、横270センチの発砲スチロールボードに厚紙を張り付けたもので、約3カ月かけて制作。

パネルには「つぎつぎとちぎ」といったキャッチフレーズ入りのロゴマークや生産量日本一のイチゴの写真、「県章」など4種類の図柄が描かれている。

福田知事は「危機意識を共有して、職員自らが取り組んだことは評価できる。県民の皆さんと一枚岩でブランド力の強化に取り組む弾みになる」と評価した。

防犯パトロール隊発足

県、失業者の臨時雇用策

県の緊急雇用創出事業の一つとして、県防犯協会が県警と協力し、失業者を臨時に雇用して県内を巡回してもらう「防犯パトロール隊」の発足した。

福田知事は「皆さんが(巡回活動に)加わることで防犯が強化される。身近な事件・事故の抑制につながる」と期待している」とあいさつ。

県警は失業者を短期で雇い、パトロールに従事してもらう雇用対策を県防犯協会に委託して実施。協会が9月末まで62人を雇用する。

パトロール隊は2人1組で、県内各署に配属。30台の青色パトカーに乗って、金融機関のATMで振り込め詐欺防止を呼びかけたり、通学路のパトロールをしたりする。



パネルディスカッションに参加した知事

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたたきました。

税滞納防止へ直接徴収

関東知事会議

関東地方知事会議（会長・橋本昌茨城県知事）が5月28日、福田富一知事をはじめ10都県の知事らが出席して都内の都道府県会館で開かれ、本県提案の「地方税にかかわる課題への対応について」など国に対する13の提案・要望事項を決めた。

本県提案の要望事項は、個人県民税・都民税などの収入未済額について、現年課税分についても都県が滞納徴収に直接的に関与できる制度を構築することなどを求めた。

福田知事は「個人県民税は市区町村に徴収をお願いしており、滞納になつてから県が徴収を引受けできる

が、1年を超えない範囲で市町村長の同意が必要。早いうちに県が押し掛けていって払ってくれとやらないと滞納額が膨らむばかりだ」と説明した。本県は県税滞納額の5割が個人県民税で、他都県同様に徴収が課題となっている。

この日は福田知事の提案で同会議後に、茨城、群馬両県と北関東3県知事懇談会を開催。福田知事は救急医療に関し、自治医大病院や足利日赤病院の救急患者の県外比率が高いことから、3県そろって県民に適正受診を呼び掛けるよう提案した。

また観光振興について、県が取り

組む「食の回廊」を両県も実施するよう提案するとともに、連携して首都圏など他地域に情報発信していくことを確認した。



関東知事会議に出席した福田知事＝都道府県会館

3選手に県スポーツ功労賞

力走で県民に希望と活力

1月の大阪国際女子マラソンで優勝した渋谷陽子選手（那須拓陽高＝三井住友海上）ら、表彰台を独占した本県3選手の快挙を記念した「トクセツション」が3月24日、県公館で開かれ、3選手がレース秘話などを披露した。出席したのは渋谷選手と2位の赤羽有紀子選手（真女高＝ホクレン）、3位の原裕美子選手（文星女高＝京セラ）の3人。本県勢が国際大会で表彰台を独占したのは初めて。その後表彰式が行われ、福田富一知事から県スポーツ功労賞が贈られた。知事は「県民にとって大変な誇り。これから世界の舞台で活躍してほしい」と激励した。

（優勝）を狙っていききたい。赤羽選手は「練習を見かけたら声をかけて」。原選手は「これからも頑張りたい」と地元への応援に感謝した。



福田知事(左端)から県スポーツ功労賞を授与された赤羽、渋谷、原の3選手(左から)

那須の森整備 大いに期待を

とちぎ元気フォーラムin那須

福田富一知事が県民と直接対話する「とちぎ元気フォーラム」が6月

27日、那須町のゆめプラザ・那須で約130人が出席して開かれた。

那須御用邸用地の一部が環境省に移管され日光国立公園「那須の森」（仮称）として保全整備される計画について、福田知事は「上部ゾーンの駒止ノ滝への観瀑台設置やビジターセンターが整備される。大いに期待していただきたい」と述べた。知事は整備構想のほか「人が足を踏み入れた所と入らない所でどう環境の違いがでるか調査も行われる」などと説明した。

福田知事は財政健全化への道筋を示す「とちぎ未来開拓プログラム」（試案）など県の現状も説明した。

東奔西走の日々

- ◇1月5日 幹部職員を前に年頭訓示／「活力回復へ全力疾走を」
- ◇1月15日 みちのく国体県選手団結団式／「本県代表として自覚と使命感を持って活躍を」と激励。
- ◇1月27日 市中央卸売市場でトップセールス／「イチゴ研究開発に尽力する」とあいさつ。
- ◇2月21日 東武日光沿線サミット／「誘客増へ情報発信を」と提言。
- ◇3月18日 わんぱく公園「ピピとピコ」物語表彰式／「公園への温かい思いが感じられた」と知事。
- ◇3月29日 東北道黒磯板室IC開通式／「効果、喜び二重三重」と式辞を述べる。
- ◇4月1日 辞令交付式／「能力を高め、即戦力として活躍して」と激励。
- ◇4月16日 JR日光線沿線駅舎リニューアルオープニングセレモニー／「世界の日光の玄関口の拠点に」と挨拶。
- ◇4月17日 苗木配布会／「緑づくりに積極的に参加してほしい」と挨拶。
- ◇5月12日 高校生全国大会優勝者・指導者知事表彰／作新ボクシング部の吉野修一郎選手と指導者の川島弘行コーチの全国連覇の健闘たたえる。
- ◇5月23日 茂木中で県植樹祭／「恵澤治著」の精神を守り続けてほしい」
- ◇5月30日 とちぎ元気フォーラムin野木／合併しない町方針一定の理解。
- ◇5月31日 とちぎの環境美化県民運動／佐野市の秋山川の一斉清掃参加道の駅どまんかなたぬまで啓発活動。
- ◇6月1日 廃棄物不法投棄パトロール出発式／「使命の重さを励みに存分に活躍して」と激励。
- ◇6月12日 都内ホテルで船村徹氏の「歌の道60年を祝う会」出席。
- ◇6月15日 「とちぎ未来大使」U字工事さんが知事表彰（上記写真）／「漫才を通じ栃木県をアピールしたい」と語る2人に「全国に向かって宣伝をよろしく」と知事。



6月15日 福田知事(中)を表彰訪問し「とちぎ未来大使」の名刺を拡大したパネルを手に持つU字工事の2人

新春の華やぎのなか

ゆりの会新年会

今年で9回目となるゆりの会新年会が2月15日(日)ホテル東日本で開催された。冒頭、福田知事の挨拶では昨年の知事選挙での感謝の言葉と、今後の県政への真剣な取り組みと覚悟を語った。余興では篠原さん、佐々木さんがフラダンスを披露し、華やいだ会を更に盛り上げた。来年は10回目の節目となるゆりの会新年会が開催されます。多くの会員のご参加をお待ちしております。



さみだれの寒さに体震わせながらの

千手ヶ浜ハイキング

1号車の皆さんと



2号車の皆さんと



3号車の皆さんと



文化講演会のお知らせ

講師 東海林のり子さん (リポーター)
 演題 「元気に生きるために～自分にかける魔法」
 日時 10月7日(水) 午後6時30分 開会
 場所 宇都宮グランドホテル
 入場料 1,000円



「現場から東海林のり子がお伝えします」

で、お馴染みの東海林さん。「お集まりの皆様が元気に笑顔で帰れるような楽しいものにしたいです。」と、ご本人からコメントも頂いております。

乞うご期待！

朝からあいにくの雨となった西の湖・千手ヶ浜ハイキング。急遽、憩いの湯へと向かう温泉コースを加え、予定通りの散策コースと二手に分かれてスタートした。まさに命の洗濯となった温泉コースでは、名湯に浸り心知れあう仲間との語らいに日常を忘れて楽しいひと時を過ごした。

一方の散策コースでは、湖畔道に見つけたシロヤシオの蕾に目を細め、森の中に感じる動物たちの気配に心躍らせ童心にかえって冒険を楽しんだ。二班合流の菖蒲ヶ浜キャンプ場には、想い想いの笑顔の花で満開となった。

ホームページが一部リニューアルオープン

7月1日、福田富一後援会総連合会のホームページが4年ぶりに一部リニューアルしてオープンしました。

マニフェスト、プロフィール、会報「初心」に加え、事務所スタッフによる「スタッフダイアリー」を開設致しました。これからは、こちらのダイアリーを通して皆様に情報発信して参りたいと存じます。ぜひご覧下さい。
<http://www.tomikazu.com>

『福田家の茶の間』

夫の趣味は『ハイキング』である。2人でいろいろな場所を歩いたが、夫が市議員に当選した昭和58年から後援会で年1回ハイキングに行っている。眠ってしまった当時3歳の長男を背負って尾瀬ヶ原を上がって来たこともある。裏磐梯の五色沼に行った時は雨の中3歳の娘を背負って登って行った。『濡れてかわいそう』と参加者がカッパを貸して下さったが、不覚にも名前を確認せず、そのままになってしまった。夫は「背負いかごだったらいいが、紐ではちよつと」と躊躇する



ので私が背負った。若かったものである。

24回目の今年は、小田代ヶ原、千手ヶ浜を通って菖蒲ヶ浜キャンプ場までのコース。あいにくの雨でお子さんも参加してくれたが寒くて可哀想だった。キャンプ場ではオーナーのIご夫妻が、焚火と熱いコーヒーマル・牛乳を用意して待っていて下さった。冷えた体にお2人の気持ちが嬉しく有難かった。

改めて思い返してみると、本当にいろいろな方に良くして頂きお世話になってきた。返しが出来ないほどの恩を受けてきた。そんな皆さんの思いに報いるためにも夫には全力で難局を乗り越えてほしいと思う。

事務所からのお知らせ

4月1日から江曾島事務所(福田富一暮しと政治研究所)の職員が福田祥子さんに替わりました。また、昨秋の選挙以降閉まっていた大通りの事務所(福田富一後援会総連合会事務所)も、6月1日より新しい職員、篠原洋さんを迎え開所となりました。これからは、篠原洋、多田寛、福田祥子のスタッフで2か所の事務所を運営してまいります。どうぞお気軽にお立ち寄りください。皆でお待ちしております。

編集後記

半年間があつという間に過ぎてしまい、また『初心』の発刊の時期を迎えた。記事を何にしようか、写真をどうしようか、と思ひ悩み、締切間際になって慌ただしくまとめた。県政の悪化などで厳しい県政運営が強いられる福田知事だが、必ずやリーダーシップを発揮してくれると信じている。ご一読下さい。

◇福田富一後援会総連合会事務所

宇都宮市馬場通り2-11-12

電話 028(633) 1111

FAX 028(633) 1110

◇福田富一暮しと政治研究所

宇都宮市江曾島町98番地

電話 028(645) 5100

FAX 028(645) 1124